

とする。したがって列車運転保安上、必ず出発信号機を設けてポイントと連動関係を保たしめ、出発進行現示のときのみ本線に開通させる。

国鉄では安全側線の設備に関してはつぎのように規定されている(車止、車輪止ならびに安全側線設備心得)。

1 安全側線はつぎの場合に施設する。ただし地形その他のため施設困難の場合は、脱線ポイントまたは脱線器をもってこれに代用することができる。

(1) 2以上の列車を同時に進入または進出させる場合相互に進路を支障するおそれがある場合。

(2) 本線または重要な側線が他の本線と平面交差するか、または分岐する場合、列車相互間あるいは列車を車両から防護する必要ある場合。

(3) 可動橋において列車または車両の防護を必要とする場合。

(4) その他特に必要な場合。

2 安全側線の分岐には遷移ポイントを用いるものとする。ただし列車または車両を出入りさせる場合は、ポイントおよびフログを用いる。

3 安全側線の方向はなるべく直線とするが、直線ととり得ない場合は遷移ポイントの付帯曲線はつぎの半径とする。

	遷移ポイント曲線半径 (m)	付帯曲線半径 (m)
1)	200より大なとき	120より大
2)	200未満 105より大	200より大

なお、遷移ポイントの方向が直線ではなく、これと相反向した付帯曲線を接続する場合には遷移ポイント取付線路はなるべく直線とする。

4 遷移ポイント、脱線ポイントまたは脱線器はこれと関係する信号機と連動させる。

安全側線の先端には、列車の速度を減殺し停車させるために砂利盛を行う。これを砂利盛線または第1種車止という。(西田正之)

アンチクリーパー (英) anti-creeper レールの匍進(ふくしん)を防止するために、施設された特殊の金具。レールの底部に取付け、ばね力、くさび作用でレールと一体になった突起をつくり、枕木(まくらぎ)の側面に定着して匍進をとめる。

国鉄においては初期時代レールに特殊の金物をボルトで締付け、その金物をレールに釘づけて匍進を防止したが、次第にばね力、くさび作用を利用するようになった。その間各種のものが考案されたがおもなものは、ユニット、フェヤー、ベスコ、住友形、外山形等である。

各種類とも一長一短があって、その種類も数十種となったので、昭和24年に鉄道技術研究所、現場敷設等の試験研究の結果国鉄標準型を制定した。

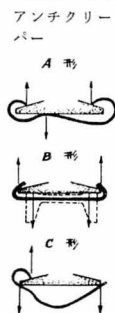
国鉄標準型は、

1 アンチクリーパーはこれを使用するレールの重量によって、30kgレール用、37kgレール用、50kgレール用に分けるほか、つぎの4種とする。

A形、B形、B形(コンクリート道床用)、C形

2 材料は鍛鋼品を標準とする。アンチクリーパーは焼入れ焼もどしを施す。

3 アンチクリーパーを最小断面寸法のレールに、約1kgの片手ハンマで十分打込んで取付け、レール底面から10mm離れたところで、荷重を加えたとき、荷重1tおよび2tに対する移動量が、レール底面中心から10mmさがった



点ではかって、それぞれ1.5mmおよび3mm以上あってはならない。

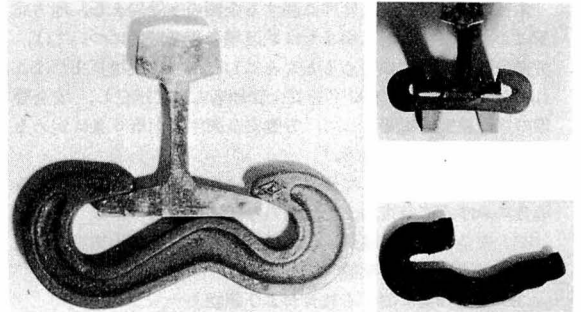
4 最小断面レールを支点間400mmにささえ、その中央にアンチクリーパーを取付け、4kgのおもりを300mmの高さから、レール頭部中央に連続200回落下させてもゆるんではならない。

大要以上のように規格された。

A形(ヘンギー式) レールをはめこむ軌跡にレール底部にばね代をつけたもの。

B形(くさび式) くさびの挿入によって、レールに締めつける。

C形(フェヤー式) ばね作用によって締めつける。



アンチクリーパー 左A型 右上B型 右下C型

各種アンチクリーパー使用についてのべると、A形は、は握部は平面的には3点で点接触しているから、はめ込みの際レールにきずをつける傾向があるから、必要以上に強く打ち込んではならない。またA形は、はめ込んだレール底部を曲げる傾向がある。30kg・37kgレール用は注意を要する。

B形はレールを面で接触しては握るので、A形・C形のようにレールにきずをつける懸念なく、かつ4点支持であるため、同一匍進に対しては他式より少ないは握ですみ、他式に比し、理論的にまざっている。

C形はA形とほぼ同様である。

一般にアンチクリーパーの取付け個数は次表による。

10m に対し 取付け数 (m)	年 間 匍 進 量	取付け数							
		1	2	3	4	5	6	7	8
20 41 回以上	列車回数	20	35	45	55	65	85	105	126
		35	45	55	65	85	105	125	150
20 40 回以下	列車回数	20	45	65	75	95	115	135	—
		45	65	75	95	115	135	150	—

(沢田謙二)

あんのうてつどう 安濃鉄道

1 事業者の概要

名称 安濃鉄道株式会社 (大正7・8・20 設立)、本社 津市大字刑部、資本金 106千円、地方鉄道12.8km。

2 地方鉄道線

新町・椋本間(三重県) 12.8km、単線、動力内燃、軌間0.762m、旅客・貨物運輸を目的とする。明治45・2・3 免許、大正3・12・29 運輸開始、昭和19・1・11より戦時中の企業整備のため休止中。(鐵錐野福次)

